

「垂直離着陸」を試験 JAXA 6日までデータ取得 大 樹

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は、町多目的航空公園で電動リフトファン式VTOL(垂直離着陸)機の飛行試験を行っている。無線操縦で6日まで飛行を繰り返し、必要なデータを取得する。

同機はJAXAの無人機未來航空機チームが2007年に開発に着手。離着陸に滑走路が必要な固定翼機と、長距離や高速飛行性能が足りないヘリコプターの短所を補う飛行機として期待される。

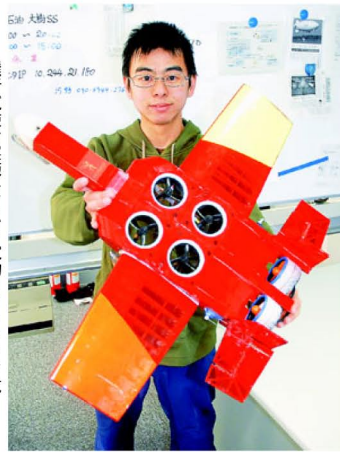
同チームによると、将来的には大型化し、高層ビルの火

災時、ビルに近づけないヘリコプターに代わり、人命救助の役割を果たせるよう開発を進めているという。

今回は同チームなどの4人が試験を担当し、2日から試験を開始。同VTOL機(全長59センチ、全幅60センチ)を垂直や水平に飛行させ、飛行特性データを取得している。

同チームの原田正志さんは「次回からは動力を電動からエンジンにスイッチアップし、実験を重ねていく」と話している。JAXAでは、これとは別のチームもVTOL機の開発を進めている。

(佐藤圭史)



飛行試験を実施している電動リフトファン式VTOL機とJAXA関係者